第１８回東京外語会有志による海外支部歴訪の旅

石原 隆良（いしはら たかよし）（外D1956）

２０番目はウズベキタン支部

ウズベキスタンへの期待

秋色深まる10月8～14日の7日に亘り、今年の「海外支部歴訪の旅」は、中央アジアのウズベキスタンを訪問した。支部歴訪の旅は今回で18回を数えるが、今回訪問したウズベキスタン支部は、我々にとって20番目に当る記念すべき支部となった。

我々は長い間訪問先の候補としてウズベキスタンを胸中に温めてきた。例えば第9回モスクワ支部訪問の際に、当時タシケント駐在であった柳沢香枝氏（C1980）が現地参加で我々一行に同行され、御蔭で参加者一同が中央アジアの情勢に関心を深めたことや、田中哲二氏（C1967）の折々の御教示を糧に知識を蓄積してきたこと、1991年の独立後の政治的改革、欧米諸国との関係改善など、ウズベキスタンの状勢に対する我々の視野も広がり、一方、シルクロードの要衝としての関心も依然として深く、諸々の思いが拡がっていた。

翻って支部に眼を転じれば、其処にも奇しき縁が繋がれていた。柳沢氏がウズベキスタンに在勤中、偶々遺跡の発掘調査のために当地を訪れた塩川裕爾氏（M1964）はこの地に感動し、柳沢氏に会うと同窓の誼から「是非此処に外語会の支部を作るべきである」と進言された由。柳沢氏もその勧めに応じ、二人協力して同窓会支部を立ち上げ、柳沢氏が会長を務めることになった。設立当初は、東京・大阪を合わせて10名程の会員が居たが、やがて二人がそれぞれにタシケントを離れた後は休眠状態になったとのことであった。奇しき縁は、塩川氏と旅行幹事の新田氏（M1962）とは学生時代からの親友であり、更に両人に加えて今回の幹事である富山、石原両名も、第6回モンゴル旅行で塩川氏と同行した仲間であった。

ウズベキスタン旅行の計画を検討するに当り、支部の現状を把握するために、新田幹事は思い出の縁を手繰ってはるばる南部アフリカのマラウイに在勤中の柳沢氏に連絡を取った。柳沢氏からの折返しのメールによって、タシケントに居られる下社 学氏（しもやしろ まなぶ：大阪外大M1994 JETRO）を紹介されたので、直ちに下社氏に連絡すると同時に、田中哲二氏にも詳細な助言を仰ぐなどの準備に着手した。

その段階で新田幹事の意向を受けて、支部委員会から下社氏に連絡をとり、ウズベキスタン支部の現状についての照会から、会員リストの提供、更に外語会本部への登録などに関する説明と、諒解を求め

た。3月半ばに下社氏から会員名簿が添えられた返信が届き、外語会本部では支部としての登録が行われた。この時の名簿に依れば、会員は大阪外語4、東京外語4、神戸市外語1で、三大学合同の形式になっていた。また下社氏から新田幹事への連絡によれば、下社氏は夏までには異動、帰国の可能性が高く、東京外語の4名はいずれも留学生であり、7月には帰国予定とのことであった。

その後、下社氏の帰国により支部長が武村勝将氏（大阪外大R1998 JICA）に交代、留学生も期間満了による交代が行われる等の現地側の異動は順調に経過し、下社氏の帰国によって我々は詳細な相談が可能になり、更に参加者に対しては田中、下社両氏を招いて出発前の詳細な説明会を催すことが出来たのも幸いであった。

楽しかった交歓会

タシケント到着の翌日（10月9日）、レストラン「カラヴァン」で行われた交歓会は誠に楽しい一夕であった。出席者は武村勝将支部長、松下幸之助氏（駐ウズベキスタン日本大使館／R2016）、高坂宗夫氏（JICAウズベキスタン事務所長）、東京外大からの留学生3名（いずれもタシケント国立東洋学大学）、訪問団は東外大16名、大阪外大3名、合計25名に上り、武村支部長の開会の御挨拶によって賑やかな語らいが始められた。

訪問団を代表して石原からの御挨拶、咲耶会加来氏からの御挨拶、高坂所長の御発声による乾杯の後、東京外語会長谷川理事長からのメッセージでは「在学生の留学制度への支部の御協力」についての御礼、東京外大林学長からは「本学におけるウズベク語を専攻語として学ぶ、中央アジア・セクションの設置」についての御披露などが伝えられた。

今回の参加者には女性が多く、その年齢層も広く、テーマも多岐に亘り、男性も負けじと賑やかな雰囲気を醸し出した。若い世代にはこの国の様々な分野に亘って関心が広がっており、道路網・鉄道など社会インフラの整備はこれからの感もあるが、ウズベキスタンの最近の経済的な発展は目覚ましく、また地下資源の豊富な事でも将来への展望は明るいと言えるのであろう。若い人々の未来への可能性が大きく育ってくれることを願っている。

ウズベキスタンを全部見よう

我々一行は翌日からタシケントのほか、文明の十字路と言われたヒヴァ、ブハラ、サマルカンドなどを訪ね、悠久の史跡や「青の都」と言われる見事な青タイルの建造物などを堪能して往時を偲んだ。

全行程の詳細報告は11月16日付けメールマガジン175号で「歴史・芸術・文化を堪能するウズベキスタン7日間訪問記」として公開しました。